

営農だより

金沢営農協議会
J A 金沢市
石川県農業共済組合

6月のポイント ~高品質金沢産米づくり運動10の推進技術~

- 中干しは、田植え1か月後から実施 ○中干し期間は、コシヒカリで約1か月間
- 畦畔・農道等の除草は5~6月にかけて実施し、7月上旬までに追加除草
- 高温登熟に対応した施肥体系

今後の水管理

5月28日時点で、莖数が少なめに推移していることから、分けつを確保するため、中干しの開始まで浅水管理を継続する。

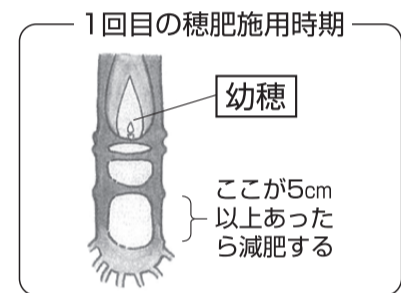
中干し終了後、**ゆめみづほ（早生品種）**は、稲が最も水分を必要とする穂肥時期（幼穂形成期）~出穂後3週間になるので、常に土壤水分を保つように（飽水管理）、こまめに通水する。通水は可能な限り、夜間に行い、根の活力低下を防ぐとともに乳白粒発生防止に努める。

コシヒカリ（中生品種）は中干しを7月5日頃まで、**ひゃくまん穀（晩生品種）**は7月10日頃まで継続する。中干しを実施していない圃場は、軽く田干しを行ったのち、中干しを実施する。

ゆめみづほの穂肥施用

ポイント

- ① 1回目の穂肥は出穂23日前に適量施用する。
1回目の穂肥施用時期の確認 → 幼穂長：1~2ミリ 葉色：4.0~4.2（葉色板）
- ② 施用時期は幼穂を確認して1回目を規定量、遅れないように注意する。
- ③ 2回目の穂肥は遅くとも出穂の1週間前までに施用する。



出穂予想日 **ゆめみづほ・・・7月22日頃**

（山間地域や圃場、田植日によって出穂予想日は前後します。）

【穂肥施用時期の目安と施用量】（10a当たり）

区分 品種	肥料名	1回目			2回目		
		施用時期	地力別	施用量	施用時期	地力別	施用量
ゆめみづほ	BB有機入追肥 526号(15-2-6)	6月29日頃	乾田	20kg	7月12日頃	乾田	25kg
			湿田	15kg		湿田	25kg
	BB有機入よしみ (東部・医王ライス センター必須)	6月29日頃	乾田	25kg	7月12日頃	乾田	25~30kg
			湿田	25kg		湿田	25kg
	BB有機入り いしかわ穂肥一発055 (穂肥一発肥料)	6月29日頃	乾田	32~36kg	—	—	—
			湿田	32kg			

- ・市街地では上記の2~3日前を、山間地は上記の2日後を施用の目安にする。
- ・乳白粒等の発生しやすい圃場で、生育が劣る場合には、2回目の穂肥施肥の際に5kg/10a程度増量する。
- ・登熟期間の高温が予想される場合には、2回目の穂肥施肥の際に5kg/10a程度増量する。

◆ コシヒカリの穂肥施用時期は次回の営農だより第5号でお知らせします。

J A金沢市のホームページにも営農だよりを掲載しております。
「J A金沢市」で検索して下さい。

◇裏もあります◇

中干し後は、止め水せずに、こまめに通水を！

営農テレホンサービス実施中（電話237-1117）

早生品種の病害虫防除

「ゆめみづほ」は茎数が多く、紋枯病にかかりやすい品種です。常発田では適期に防除して下さい。

◆紋枯病常発田◆ 紋枯病が毎年発生する圃場では、予防剤による防除が重要です。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
リンバー粒剤	7月8～11日頃 (出穂前14～11日、収穫30日前まで)	紋枯病	3kg/10a

- ・イモチエースクラブ粒剤を散布する圃場は、リンバー粒剤を散布する必要はありません。
- ・紋枯病の発生がみられた場合は、モンセレン粉剤DLを4kg/10aを散布して下さい。

◆稲こうじ病◆ 過去に稲こうじ病の発生した圃場は発生翌年度から3年間継続して散布して下さい。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
Zボルドー粉剤DL	7月2日～7月12日頃 (出穂前20～10日)	稲こうじ病	4kg/10a
モンガリット1キロ粒剤	7月8日頃 (出穂14日前、収穫45日前まで)	紋枯病、 稲こうじ病	1kg/10a

注意1：Zボルドー粉剤DLは、薬害防止のため出穂10日前までに散布する。
散布後7日間は落水かけ流しをしない。

注意2：モンガリット1キロ粒剤を散布した圃場は散布後45日間は、刈取りが出来ませんので、刈取日に注意して下さい。

◆イナゴ◆ 昨年イナゴが発生した圃場は注意を払い、イナゴを確認したら早急に防除しましょう。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
トレボン粉剤DL	6月～7月(収穫7日前まで)	イナゴ類、フタオビコヤガ、 カメムシ類など	3～4kg/10a

◆早生品種の1回目の基幹防除(出穂前)

〈粉剤体系〉

薬剤名	①ビームトレモンセレン粉剤DL
防除時期	7月15～19日頃 (出穂前7～3日) (収穫21日前まで)
対象病害虫	いもち病・紋枯病・穂枯れ カメムシ・ウンカ イネツトムシ・コブノメイガ ツマグロヨコバイ
散布量	4kg/10a

〈微粒剤体系〉(専用ホースが必要です)

薬剤名	①サジェスト微粒剤F
防除時期	7月15～19日頃 (出穂前7～3日) (収穫21日前まで)
対象病害虫	いもち病・紋枯病 カメムシ類・ウンカ ツマグロヨコバイ
散布量	3kg/10a

〈粒剤体系〉(市街地等)

薬剤名	①イモチエースクラブ粒剤
防除時期	7月8～12日頃 (出穂前14～10日) (収穫35日前まで) *使用回数は1回
対象病害虫	紋枯病・いもち病・穂枯れ カメムシ・ウンカ 墨黒穂病・変色米
散布量	3kg/10a

(2回目以降の防除については、次回の営農だより第5号に掲載します)

◆斑点米カメムシ類◆ ～農道や畦畔の除草は7月上旬までに実施しましょう～

- ・カメムシ類の発生が近年増加する傾向にあります。
- ・カメムシの生息密度を下げるため、こまめに畦畔や雑種地の除草をしましょう。
- ・斑点米防止には、地域での一斉防除(ラジヘリ、集落一斉防除など)が有効です。地域、集落ごとに協力して斑点米の発生を防ぎ、きれいな金沢産米をつくりましょう。

本田後期除草剤について

使用時期(収穫前日数)は必ず確認して下さい。

適用雑草	薬剤名	使用時期	使用量/10a	注意事項
ノビエ	トドMF乳剤	移植後14日～ノビエ7葉期まで (収穫50日前まで)	薬量200ml 希釈水量100L	落水状態で散布 本剤の使用は2回以内
	クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6葉期まで (収穫30日前まで)	薬量100ml 希釈水量100L	落水状態で散布 効果を高めるため展着剤を加用する 本剤の使用は2回以内
広葉雑草	バサグラン液剤	移植後15～55日 (収穫50日前まで)	薬量500ml 希釈水量100L	落水状態で散布。展着剤の必要なし 本剤の使用は2回以内
ノビエと広葉雑草	クリンチャーバスME液剤	移植後15～ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	薬量1,000ml 希釈水量100L	落水状態で散布。展着剤の必要なし 本剤の使用は2回以内

※農薬は、飛散防止に気を付けて散布しましょう。

栽培履歴を記載しましょう！